

白鳥バレエ公演

DOUBLE BILL

ライモンダ (鹿兒島初演) プロローグ~2・3幕

ラ・シルフィード 森の景



白鳥五十鈴

幻の恋 命懸けの恋

異国情緒あふれる
生の祭典へようこそ!



芸術監督
白鳥見なみ

メインキャスト



白鳥五十鈴



土田三郎



陳健国



鈴木裕



河島真之



福永美紀



樋之口明子



小園由佳



洲野志麻



伊地知真梨



石黒善大



樋田真嗣



水野陽刈



柳元隆太郎



酒匂麗

2012 2/11 SAT.
於: 宝山ホール
開場17:30 開演18:00

【料金】 全席指定

<前売券> S席/¥6,000(税込) A席/¥5,000(税込) B席/¥4,000(税込)

<当日券> S席/¥6,500(税込) A席/¥5,500(税込) B席/¥4,500(税込)

* 各席とも、前売りにて完売の場合はお求めになれませんので、あらかじめご了承くださいませ。

【チケット取扱】

■ 山形屋 ■ 十字屋CROSS ■ 白鳥バレエ後援会事務局

白鳥バレエ公演 2012 Double Bill

白鳥五十鈴 襲名後第一作「ライモンダ」プロローグ〜2・3幕「ラ・シルフィード」森の景

白鳥バレエの《ダブル・ビル》公演に期待する

白鳥バレエが『ライモンダ』の第2、3幕と『ラ・シルフィード』の森の景による《ダブル・ビル》公演を行う。バレエ公演は、全幕の《フル・イブニング》、二つのプログラムを組み合わせた《ダブル・ビル》、三つの《トリプル・ビル》と、上演する作品の数によって呼び方が変わる。かつて白鳥バレエは、白鳥見なみ振付による『平家物語』全三幕による《フル・イブニング》の平成2年文化庁芸術祭参加公演を東京で行い、その完成度の高さと首都圏のバレエ・ファンに強い印象を残した。私は、この作品の主演の平清盛の役を、当時ロシア人ダンサーで強烈な個性で注目されていたタランダに躍らせてみたいという内容の批評を書いたことを思い出す。そのタランダは『ライモンダ』の中で主演のライモンダ姫にむりやり結婚を迫るアブデラフマンという適役を得意とした。こんどの白鳥バレエの《ダブル・ビル》で『ライモンダ』を見る時には、名優タランダのこと、白鳥バレエの『平家物語』のことなどが懐かしく思い出されるに違いない。1909年、ディアギレフの率いるバレエ・リュスがパリジ

ャンに衝撃を与えた最初のシーズンは、『アルミードの館』『鞭組人の踊り』『饗宴』という《トリプル・ビル》だった。最近の日本バレエ界では、一晩でいろいろ見られる公演の人氣が高まってきている。

今回の白鳥バレエの《ダブル・ビル》には、『ライモンダ』第2幕の命をかけた恋の見せ場、第3幕の豪華なダンス・シーンがあり、ロマンティック・バレエ『ラ・シルフィード』の森の場面で、シルフィードとジェイムスの軽妙な恋のかけひきを見ることができる。フランスの気丈なお姫様と森に住む美しく気まぐれな妖精という、まったく性格の異なる女性像を、白鳥五十鈴がどのように踊りわけて見せてくれるのか楽しみだ。また《フル・イブニング》よりも何かと手間のかかる《ダブル・ビル》というバレエ上演の新しい方式を、南九州のバレエ・ファンに提案した芸術監督の白鳥見なみが、白鳥バレエを愛する人たちと共にその成果を分かち合う現場に居合わせたいと思う。

山野 博大

バレエ評論家 山野 博大
Hakudai Yamano

1936(昭和11)年4月10日 東京生まれ。
1959(昭和34)年3月 慶応義塾大学
法学部法律学科卒業。
1957(昭和32)年より音楽新聞、オン
ステージ新聞、ダンスマガジン、ダン
サー、インターネット上の“THE
DANCE TIMES”等に舞踊批評を執筆。

文化庁芸術祭執行委員会審査委員、同
企画委員、同芸術選奨選考委員、同ア
ーツプラン21舞踊部門企画委員、同審
査委員会舞踊専門委員会主査、同芸術
家在外研修員・インターナショナル研
修員舞踊部門選考委員、日本芸術文化
振興基金舞台芸術等部会委員、同舞踊
専門委員会主査等を歴任。

文化勲章、文化功労者、橘秋子賞、服部
千恵子賞、朝日舞台芸術賞、江口隆哉賞、
ニムラ舞踊賞、河上鈴子賞、舞踊批評
家協会賞等の選考、京都賞、ニッセイ・
バックステージ賞等の候補者推薦に
関わる。

2006(平成18)年、永年にわたる舞踊
評論活動の功績により、文化庁長官表
彰を受ける。

SHIRATORI
Ballet
Double Bill

出演者一覽

Cast

白鳥 五十鈴・土田 三郎・陳 建国・鈴木 裕・河島 真之
梶田 真嗣・石黒 善大・水野 陽利・柳元 隆太郎・酒匂 麗
木澤 譲
福永 美紀・樋之口 明子・小園 由佳・瀧野 志麻・伊地知 真梨
中村 律子・柿元 理予・島津 貴久子・中村 みなみ・野口 おおる
豊広 さつき・大西 糸り子・宮田 裕子・高原 ゆかり・奥田 祥子
古垣 磨季・畠中 史子・木下 麗子・名越 美沙子・樋口 あや
刀迫 智子・森元 恵子・村中 照美・田中 紀弥子・松島 裕恵
米澤 悦子・鮎川 美紗緒・岩元 加代子・笠原 緑・早見 洋子
島村 友香・井上 香奈・大勝 郁弥・前屋敷 和宏・古野 遼太
森岡 舞・吉富 真梨子・坂元 しえる・森 優佳
森山 唯・松尾 莉愛・横井 萌・山崎 優里
後藤 成美・上野 琴葉・鬼丸 妃奈子・馬場 梨里花・石丸 紗綺
福永 百夏・池田 裕香・古野 菜奈・渡辺 瑠南
柴村 真凜・田口 春菜

《スタッフ》【音楽】アレクサンドル・グラズノフ/ジャン・マドレーヌ・シュ
ナイツホッフアー 【原振付】マリウス・プティパ/ブルノンヴィル 【再振付】
白鳥見なみ/白鳥五十鈴 【演出助手】木澤譲 【照明】北元順(MBCサンステ
ージ) 【音響】田中伸二 【装置】末広哲(ユニワークショップ)/白鳥バレエ
【衣裳】白鳥バレエ衣裳部/貝谷バレエ団/石田コスチューム 【舞台監督】諏訪
和宏 【制作】白鳥バレエ 【芸術監督】白鳥見なみ

あらすじ

「ライモンダ」中世フランスの伯爵夫人の姪、ライモンダは騎士ジャン・ド・プリエンヌと婚約している。キリスト教の聖地エルサレムを守るため、ヨーロッパから中東へ遠征の長旅へ向かうことになった十字軍。勇敢なジャンは、愛しいライモンダに婚約の証であるベールを渡し戦いに出発するのだった。時は流れ、伯爵夫人の家では、豪華なパーティーが開かれている。招待客の中には、サラセンの騎士、アブデラフマンもいた。彼はライモンダに求婚し、富と権力を贈ることを約束するが、ライモンダのジャンへの気持ちは変わらない。ライモンダに拒絶されたアブデラフマンは、ライモンダを誘惑しようとするが、そこへジャンが帰還し、争いとなる。アンドレ2世が決闘と命じ、勝利はジャンの手に。アブデラフマンは傷つき倒れるが、死の間際にもライモンダへの愛を訴えるのだった。ライモンダとジャンは幸せな結婚祝賀会を迎えるのであった。



ラ・シルフィード/白鳥五十鈴・陳建国

「ラ・シルフィード」

舞台は1830年のスコットランド。婚礼を前にした若者ジェームズと、空気の精シルフィードとの恋のお話。「ジゼル」というロマンティックバレエの名作が生まれるきっかけとなった作品。1832年初演当初、ギリシャ神話ばかりだったオペラ座の舞台は、その後妖精の棲みかに変貌するほど愛された主題となる。現代も、各国のプリマたちが競演する名作である。

shiratori-ballet.com

2012 2/11 SAT. 於：宝山ホール 第1部 ラ・シルフィード 第2部 ライモンダ
開場17:30 開演18:00

SHIRATORI
Ballet

【料金】<前売券> S席/¥6,000(税込) A席/¥5,000(税込) B席/¥4,000(税込) 【チケット取扱】 ■ 山形屋 ■ 十字屋CROSS
<当日券> S席/¥6,500(税込) A席/¥5,500(税込) B席/¥4,500(税込) ■ 白鳥バレエ後援会事務局

■ お問い合わせ

099*222*6536
(白鳥バレエ)

【後援】 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、南日本新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、南日本リビング新聞社
MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、KYT鹿児島読売テレビ、エフエム鹿児島、鹿児島県バレエ協会

* 全席指定 * 各席とも、前売りにて完売の場合、当日券はお求めになれませんので、あらかじめご了承くださいませ。